

4 高速鉄道事業

(1) 事業の概況

高速鉄道事業は、昭和 40 年代以降、仙台都市圏の拡大、モータリゼーションの進展に伴う交通混雑激化の中で地下鉄建設計画の検討が始まり、昭和 55 年 5 月に事業免許を受け、昭和 62 年 7 月 15 日に富沢駅～八乙女駅間で南北線の運行を開始した。平成 4 年 7 月には南北線が泉中央駅まで延伸され、さらに平成 27 年 12 月 6 日には東西線が開業した。

東西線開業後の仙台市地下鉄は、南北・東西の両線とが一体となって本市を東西南北に貫く十文字の骨格交通軸を形成し、仙台都市圏における基幹交通機関として市民生活に重要な役割を担っており、平成 29 年 7 月 15 日をもって開業 30 周年を迎えた。

平成 28 年度においては年間約 8,370 万人（1 日あたり約 22 万 9 千人）のお客様に利用され、安全運行を第一としながら、お客様の視点に立ったサービスの向上と効率的な事業運営に継続して努めている。

安全性向上のための取り組みとしては、南北線の信号現場機器の更新等を進めているほか、バリアフリー化の一環として、南北線の駅トイレ入口の段差解消やひろびろトイレを含めた全面的な改修を実施するとともに、昇降機の増設及び更新工事、非常用警報装置の設置、誘導・案内設備の整備を進めている。また、省エネルギー化への取り組みとして、設備等の更新時には省電力型の採用を進めている。

利用しやすい環境づくりの取り組みについては、職員に対して「心のバリアフリー化推進事業」として接遇研修や介助法研修等を実施し、お客様サービスの向上に努めているとともに、小学生を対象とした「交通バリアフリー教室」やお客様へ乗車マナー向上を呼びかける「快適乗車マナーアップキャンペーン」などの啓発活動を行っている。

利便性向上のための取り組みとしては、八木山動物公園駅、薬師堂駅、荒井駅の構内への液晶モニター式のバス発車時刻表示機の設置、「地下鉄東西線バスのりつぎ時刻表」の作成・配布を実施し、バスとの連携強化を図っている。また、平成 28 年 10 月には IC カード化した敬老乗車証の運用を開始している。さらに、地下鉄全駅においてタブレット端末を活用した翻訳、筆談、地図等の案内業務を実施するなど、お客様サービス向上に努めている。

効率的な事業運営に向けた取り組みとしては、南北線 8 駅、東西線 9 駅において駅業務の委託を実施している。

現在、仙台市地下鉄の乗客数は順調に増加しているところであるが、一方で、東西線開業に伴う資本費負担の増大により、厳しい経営状況が続いていくことが見込まれる。今後とも、安全運行を第一とし、更なる増客に向けた努力を継続しながら、お客様の視点に立ったサービスの向上と効率的な事業運営に努めていく。

